

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の4年目)

1. 研究課題

中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む

Chinese Laity's View of Buddhism: Reading the Expanded Collection of the Propagation of Light compiled by Daoxuan in the Tang

2. 研究代表者氏名

船山 徹

FUNAYAMA, Toru

3. 研究期間

2020年4月-2024年3月(4年目)

4. 研究目的

本研究班は、共同研究班「中国在家の教理と経典」の方法と成果に基づき、唐の道宣撰『広弘明集』に収める中国在家の著作から彼らの仏教観を検討する。四～七世紀頃の中国で仏教は様々な発展を遂げた。出家僧だけでなく文人等の在家信者が果たした役割も大きかった。出家者が学んだ経典や論書は現在の大蔵経の全貌を理解することから知られるが、一方、在家者の仏教知識がどの程度のものだったか、それは出家社の理解と相違する点があったのか、在家者に共通の得手不得手があったか等の問いに答えることは予想以上に難しく、現在に至るまで確かな答えは得られていない。人文研ではかつて六朝隋唐時代の知識人や庶民の仏教を知るため、『肇論』『弘明集』等の会読が行われた。本研究班はその流れを継承しながら、多くの在家仏教徒の著作を収める道宣撰『広弘明集』(7世紀)を主な素材として中国在家仏教の実態解明を目指す。

Based on the methodology and results conducted by "Buddhist Sutras and Doctrines for the Chinese Laity" (2016-20), this projects attempt to shed a new light on the acutal situation of Buddhist Laity in medieval China. As Chinese Buddhism underwent various developments between the fourth and seventh centuries, not only monastics but also laypeople played a large role. Although we can learn about the sutras and treatises studied by monastics through the entire Buddhist canon that is extant today, with regard to lay Buddhists, various questions remain unexpectedly difficult to answer, such as: To what extent did laypeople possess knowledge of Buddhism? On what points was that knowledge similar to and different from the knowledge held by monastics? Were there any shared likes and dislikes of particular Buddhist scriptures and ideas among laypeople? Previous seminars held in this institute

studied texts such as the Zhao lun and Hongming ji in order to understand the Buddhism of intellectuals and ordinary people during the Six Dynasties, Sui, and Tang periods. The present research seminar aims to continue this line of inquiry, taking as its main source text the Expanded Collection of the Propagation of Light (Guang hongming ji, 7th c.) – in which the compiler Daoxuan gathered the writings of many lay Buddhists – in order to clarify the real conditions of lay Buddhism in China.

5. 本年度の研究実施状況

最終年度である令和5年度は隔週金曜午後に各3時間、以下の通り、合計14回の研究班を開催した。(1) 蕭綱「大法頌〈并序〉」船山徹、(2) 同、魏藝、(3) 同、船山徹、(4) 同、魏藝、(5) 「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」、趙ウニル、(6) 「玄圃園講頌〈并序〉」、船山徹、(7) 同、同、(8) 梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」、船山徹、(9) 「梁簡文帝法寶聯璧序」、倉本尚徳、(10) 同、同、(11) 「莊嚴旻法師成實論義疏序」、船山徹、(12) 同、中西俊英、(13) 「内典碑銘集序」、魏藝、(14) 同、村田みお、以上14回。

6. 本年度の研究実施内容

2023-04-21	蕭綱「大法頌〈并序〉」(3)	発表者	船山徹	所内
2023-05-09	陸雲「御講波若經序」(4)	発表者	魏藝	龍谷大学大学院
2023-06-02	蕭綱「大法頌〈并序〉」(5)	発表者	船山徹	所内
2023-06-30	蕭綱「大法頌〈并序〉」(7)	発表者	魏藝	龍谷大学大学院
2023-07-07	「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」	発表者	趙ウニル	梨花女子大学校
2023-09-15	「玄圃園講頌〈并序〉」(1)	発表者	船山徹	所内
2023-10-06	「玄圃園講頌〈并序〉」(2)	発表者	船山徹	所内
2023-10-20	梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」	発表者	船山徹	所内
2023-11-17	「梁簡文帝法寶聯璧序」(1)	発表者	倉本尚徳	所内
2023-12-01	「梁簡文帝法寶聯璧序」(2)	発表者	倉本尚徳	所内
2023-12-15	「莊嚴旻法師成實論義疏序」(1)	発表者	船山徹	所内
2024-01-19	「莊嚴旻法師成實論義疏序」(2)	発表者	中西俊英	京都女子大学
2024-02-16	「内典碑銘集序」(1)	発表者	魏藝	龍谷大学大学院
2024-03-15	「内典碑銘集序」(2)	発表者	村田みお	近畿大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

船山徹、稲葉穰、稲本泰生、ウィッテルン、クリスティアン、古勝隆一、倉本尚徳、中西竜也、石垣章子、ラブダール、ネイト

学内

中村慎之介(文学研究科 PD)、慶昭蓉(白眉センター)

学外

河上麻由子(大阪大学大学院人文学研究科)、李乃琦(名古屋大学文学研究科)、魏藝(龍谷大学大学院文学研究科)、中西俊英(京都女子大学文学部)、村田みお(近畿大学国際学部)、久永昂央(東大寺ミュージアム)、趙ウニル(梨花女子大学校)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	9	1	0	0	2	71	13	0	0	2
京大内 (人文研を除く) (内女性)	1	1	0	0	0	1	7	0	0	0	7
国立大学 (内女性)	1	1	0	0	0	0	11	0	0	0	0
公立大学 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学 (内女性)	3	3	1	0	0	0	22	1	0	0	0
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関 (内女性)	1	1	0	1	0	0	6	0	7	0	0
外国機関 (内女性)	1	1	1	1	0	0	3	3	3	0	0
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	16	3	2	0	3	120	17	10	0	9
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要		(5)	(2)	(1)	(0)	(1)	(32)	(4)	(3)	(0)	(1)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	『東方學報』 京都	1	R5.12	梁武帝『断酒肉文』訳注	「中国在家の仏教観」研究班

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	梵網經の教え：今こそ活かす梵網戒	船山徹	R5.4	臨川書店	

12. 博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	2 (学内1・学外1)

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

令和5年度に会読したが未公表の訳注稿については、『東方學報』京都98冊及び以後に掲載し公刊する準備を進めている。